

2021年2月

〈海外文献紹介〉

Social selectivity in aging wild chimpanzees.

Alexandra G Rosati, et al.

***Science*. 370: 473-476 (2020).**

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33093111/>

ヒトの健康や寿命延伸の鍵となる高齢者の社会性変容が、近年注目を浴びています。加齢による変化は身体機能のみならず、社会性行動にも影響を及ぼすことが知られています。

ヒトは年齢を重ねるにつれて、友好的な人間関係を優先する傾向にあるとされています。これは人間が自分の死を意識するようになると、ポジティブな情報を好むようになる社会的選択性に起因するものと考えられており、社会情動的選択性理論 (Socioemotional Selectivity Theory) として様々な検証がなされてきました。今回紹介する論文では、この理論を基に、社会性行動の加齢性変化 (Social Aging Phenotype) の進化的背景を明らかにするため、15~58歳までの野生オスチンパンジーの20年に渡る縦断的データを分析し、ヒト高齢者の社会性行動との比較検討が試みられました。チンパンジー同士の友好関係は毛繕い (Grooming) の回数やパターンなどを指標に評価されました。高齢 (35歳以上) のオスチンパンジーでは、一方的な友好関係性を持つことを避け、相互的な友好関係を重要視する、ヒトと類似した社会性行動傾向が見られました。また高齢のオスは集団での支配的地位は低下しているにもかかわらず、魅力的な社会的パートナーになっている興味深い可能性が示されました。

このようにヒトと他の動物に共通して見られる Social Aging Phenotype を理解していくことで、今後、高齢化社会における社会性の柔軟な変化が持つ役割について明らかになっていくことが期待されます。

(文責：多田敬典)